

宮城県漁業士会報

海人

K A I T O

第22号 (令和5年3月発行)



写真：ワカメのボイル作業

宮城県漁業士会

仙台市青葉区本町三丁目8番1号(宮城県水産林政部水産業振興課内)
TEL 022-211-2935 FAX 022-211-2939

漁業士会とは



漁業士制度は、次代を担う漁業後継者の育成・確保を目的として昭和六十一年度に国が制度化したものです。

漁業士になるためには、地域漁業を担う中核的漁業者として、宮城県知事から認定される必要があります。活動経験や年齢に応じて、「青年漁業士」と「指導漁業士」に区分されます。

宮城県漁業士会は、平成二年に発足し、令和四年で三十二周年を迎えました。当会は、北・中・南部の三支部に分かれ、研修会や先進地視察を通して会員自身の知識や技術を高めるほか、漁業後継者の育成や魚食普及活動等に取り組んでいます。

今後とも宮城の水産業の振興に向けて取り組んでいきますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【会員数(令和五年三月末現在)】

青年漁業士 五十三名
指導漁業士 七十一名
合 計 百二十四名

会長のメッセージ



会長 小野寺 和義
おのの かつよし

(JFみやぎ気仙沼地区支所)



会員の皆さまにおかれましては、日頃から本会の活動にご理解とご協力を頂いていることに対し厚くお礼申し上げます。

令和四年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響やウクライナ情勢等による資材・燃油の高騰などに不安な思いをした方も多いかと思えます。

一方で、本会においては、三年ぶりに総会や研修会を対面で開催したり、全国の漁業士と交流する東北・北海道漁業士ブロック研修会に参加したりするなど、コロナ禍で休止になっていた活動が再開し始めた年でもあったと感じています。

研修会等の中での意見交換や、

先日視察した全国青年・女性漁業者交流大会の発表の内容をみますと、全国で同様の課題があり、その課題を解決する様々なアイデア・取組が展開されていると実感しています。これまで思うような活動ができなかったストレスを原動力に変え、地域水産業の活性化に向け活動する漁業士会でありたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新漁業士のご紹介

漁業士の認定

令和四年度の新規漁業士認定式は、六月七日にホテル白萩を会場とし、農業士の認定と合同で開催されました。水産分野では、青年漁業士三名、指導漁業士三名が新たに認定されました。新漁業士の皆さまには、副知事より認定証と漁業士徽章が交付されました。

当日は、指導漁業士の代表として渥美建指導漁業士に、青年漁業士の代表として高橋栄樹青年漁業士にそれぞれ挨拶をいただきました。また、認定式終了後は、新漁業士と県の水産職員の皆さままで意見

交換会を実施しました。新漁業士の皆さまに抱負を語っていただきましたので、ご紹介いたします。



認定証交付式の記念撮影



認定証交付式後の意見交換会

指導漁業士 二名



小野 具大さん
(JFみやぎ志津川支所)



【漁業種類】ワカメ養殖
【趣味】釣り、車いじり
【抱負】環境対策、地域水産業への発展・活性化に貢献できるように努めていきたいです。

二宮 義秋さん
(JFみやぎ鳴瀬支所)



【漁業種類】カキ養殖
【趣味】映画鑑賞
【抱負】漁業士として新しい事にチャレンジし、皆から信頼される漁師を目指したいです。



指導漁業士を代表し挨拶する渥美漁業士

渥美 建さん
(JFみやぎ谷川支所)



【漁業種類】ホヤ養殖
【趣味】釣り
【抱負】指導漁業士として漁業の知識・技術を磨き、地元漁業の発展に貢献していきたいです。

青年漁業士 二名



佐々木 英幸さん
(JFみやぎ歌津支所)



【漁業種類】ワカメ養殖、漁船漁業
【趣味】ネットサーフィン
【抱負】目まぐるしく海況が変化する中、漁業士会の活動から積極的に情報・技術を吸収し、地域漁業の発展に貢献できる漁師になりたいです。

阿部 智司さん
(JFみやぎ谷川支所)



【漁業種類】ホタテ養殖
【趣味】スポーツ観戦(球技)
【抱負】地域の漁業を次世代に残すことができるよう、漁業士として積極的に活動していきたいです。



青年漁業士を代表し挨拶する高橋漁業士

高橋 栄樹さん
(JFみやぎ歌津支所)



【漁業種類】ワカメ・ホタテ・カキ養殖
【趣味】DIY
【抱負】父の築いた養殖技術を継承しつつ、漁業士会の活動を通じて新しいことにも挑戦し、子や孫の代へしっかりと残せる漁業を目指していきたいです。

活動報告



令和四年度東北・北海道ブロック漁業士研修会

副会長 阿部 慶昭 あべ よしあき

(JFみやぎ北上町十三浜支所)

令和五年一月二十一日、三年ぶりとなる東北・北海道ブロック漁業士研修会が岩手県(アートホテル盛岡)で開催され、小野寺会長とともに参加しました。

当日は、北海道と山形県を除く五県が一堂に会し、各道県漁業士会の活動報告及び意見交換が行われました。全国会議テーマ「漁業就業者対策において漁業士ができること」については、各県で漁業体験や出前講座の実施に協力していると報告がありました。また、各県で特色のある取組を実施している一方で、漁業士の高齢化など共通の課題も多いと感じました。

研修会後の交流会では、各県の漁業士の代表者や幹事団体の岩手県漁業士会の皆さまと歓談することができ、大変勉強になりました。

来年度の東北・北海道ブロック漁業士研修会は、茨城県で開催されます。



記念撮影：小野寺会長(右)・阿部副会長(左)



会場の様子

令和四年度全国漁業士連絡会議

会長 小野寺 和義 おのの かつよし

(JFみやぎ気仙沼地区支所)

令和五年二月二十八日、全国漁業士連絡会議が東京都(農林水産省)で二年ぶりに開催され、宮城県代表として参加しました。

当日は、対面で二十二道府県、オンラインで六県の漁業士会の代表者が参加し、東北・北海道ブロック漁業士研修会でも議題となっていた「漁業就業者対策において漁業士ができること」と来年度のテーマについて議論しました。

就業者対策については、各道府県で出前講座や漁ろう指導を実施しているところが多い一方で、参加者が少ないことや定着率が低いことに悩んでいるという意見が多く見られました。

来年度のテーマについては、漁業士として、「海業」などの漁村振興やスマート水産業といった新しい技術の導入等により、収入を上げられないかといった意見が多く提案されました。例年、各ブロックの提案テーマから、来年度

のテーマを多数決で決定していたそうですが、討論の結果、今回はそれぞれの意見を集約してテーマを作成することとなりました。



記念撮影：小野寺会長



会場の様子

支部だより

支部だよりでは、北・中・南部の各支部の活動や浜で注目される漁業士の活動をご紹介します。

北部支部

宮城県漁業士会北部支部研修会

当支部では、令和四年六月二十四日に、はまなす海洋館を会場とし、研修会を開催しました。「近年の宮城県沿岸の海況と海水温上昇による海生生物の温度影響」について、県水産技術総合センターの鈴木主任研究員よりご講演いただきました。

講演では、海流変動による影響や海水温上昇に伴う魚種の変化、海洋酸性化の仕組みについて説明がありました。参加者からは、「海流とサケ漁獲量は関係するの か」、「近年、定置網でメバルがかかるようになったが、暖水の影響なのか。」など様々な質問が挙がり、有意義な意見交換の場となりました。

今後も、当支部会員の興味がある取組内容や事業について、研修会を開催したいと思います。



研修会の様子

子ども食堂における食材提供イベントの開催

令和四年十一月二十三日に「お魚博士になろう！〜サバ編〜」と題し、常設の遊び場「気仙沼あそびーばー」において食材提供イベントを開催しました。

イベントには三十名が参加し、始めに食材に関するミニ講座やオリジナル缶バッジ作りを行いました。ミニ講座では、刺網漁業の一日の流れ、サバの成長サイクルや種類、栄養価、料理法などを説明し、子どもたちからは、「サバにもアニサキスがいるのか。」などたくさん質問が挙がりました。缶バッジ作りでは、水産生物を描き、オリジナルの缶バッジを作成しました。一人で二、三個作る子どもたちも

いて、大変好評でした。

その後の昼食会では、佐々木英幸青年漁業士（ＪＦみやぎ歌津支所）より無償で提供していただいたサバを使用し、気仙沼リアス調理製菓専門学校のご協力により、「サバサンド」と「クラムチャウダー」を用意していただきました。「魚が苦手…」と話す子どももいましたが、実際に口にすると、みんなが「美味しい！」と言って嬉しそうに食べてくれました。四十食用意した料理はすぐになくなり、イベントは大盛況に終わりました。

保護者の皆さまからも「また開催してほしい！」とリクエストを頂き、魚食普及の重要性を改めて

実感しました。

イベントの開催に加え、当支部では配送による食材提供も実施しました。小松武指導漁業士（ＪＦみやぎ気仙沼地区支所）及び藤田純一青年漁業士（ＪＦみやぎ気仙沼地区支所）に協力していただき、県内の一人親世帯を対象に、一月は「カキ」、二月は「水産加工品」を提供しました。食材を提供するだけではなく、提供食材に関するチラシや県気仙沼地方振興事務所水産漁港部「水産漁港部だより」を同梱し、少しでも水産物への興味・関心を持ってもらえるようにしていきます。

子どもたちが水産物を食べることを身近に感じ、併せて地元水産物の美味しさや魅力を知るきっかけづくりとして、今後も魚食普及活動が続けていきたいと思っています。



子どもたちとの記念撮影



昼食会の様子

中部支部

宮城県漁業士会中部支部研修会

当支部では、令和四年七月二十日に県石巻合同庁舎を会場として研修会を開催しました。

研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から三年ぶりの開催となりましたが、当日は会員約二十名が参加し、講師として国立研究開発法人水産教育・研究機構水産資源研究所の寛主任研究員をお迎えして、「近年の漁場環境の変化と今後懸念される温暖化の影響」と題してご講演いただきました。

講演では、近年の海水温及び潮流の変動傾向をもとに、三陸沖での魚種及び漁獲量の長期変化や、サンマ漁やワカメ養殖など本県水産業にとって重要な漁業種への影響について説明いただきました。参加した漁業士からは、「今後の春漁への影響はあるのか。」「水揚げが急減少している秋サケ資源が回復する見込みはあるのか。」といった様々な質問が挙げられ、活発な意見交換が行われました。当支部では、今後も漁業経営の参考となる研修会を開催し

ていきたいと考えています。



研修会の様子

石巻農業士会との交流会

若者の地元就職に向けた体制づくりと一次産業間の情報共有を目的として、石巻農業士会と当支部との交流会を、令和五年二月二十八日に開催しました。

交流会には、漁業士十三名、農業士八名が参加し、講師として県内外で担い手対策に取り組む一般社団法人フィッシャーマン・ジャパンの島本マネージャー、藤島漁業経営相談員をお招きし、「若者にとって魅力ある、働きやすい一次産業とするためにはど

うすれば良いか？」をテーマにご講演いただきました。

参加した漁業士・農業士の皆さまからは、近年の資材高騰の影響で経営が厳しさを増す中、法人化のメリットやデメリット、新規就業者が定着するための取組などについて、活発な意見交換が行われました。



交流会の様子

漁業士の活動紹介 ～ノリ養殖の出前授業～

今回は、ノリ養殖業を営む相澤充指導漁業士（JFみやぎ石巻湾支所）による、ノリ養殖の出前授業をご紹介します。

相澤漁業士は、震災以降、地域

の子どもたちに、地元食材への理解を深めてもらおうと、石巻市立万石浦小学校の総合的な学習活動の一環として、ノリ養殖の出前授業を開催しています。

今年度の勉強会は、令和五年一月二十五日に開催され、参加した小学五年生四十一名は、相澤漁業士からノリの生態や収穫から加工までの一連の流れ、焼きノリ、乾ノリや一番摘みなどによる香りや味の違いについて説明を受け、真剣に聞き入っていました。

当支部では、今後も漁業士による地域の学習活動などについて支援を継続していききたいと考えています。



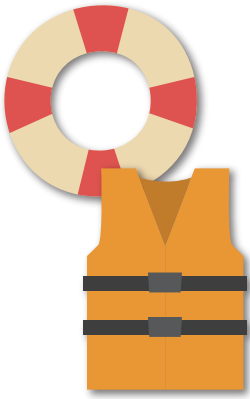
ノリ養殖勉強会の様子

南部支部

宮城県漁業士会南部支部研修会

当支部では、漁業士自身の研鑽を図ることを目的に、令和四年七月十五日にブライダルプラザわかばを会場とし、第一回研修会を、また、八月二十二日に県仙台地方振興事務所水産漁港部を会場とし、第二回研修会を開催しました。

第一回研修会には、講師として、宮城海上保安部交通課佐々木専門官、県水産技術総合センター藤岡技師をお迎えし、宮城海上保安部から「救命胴衣および自己救命策」、県水産技術総合センターから「ドローンによるノリ養殖業のスマート化」についてご講演いただきました。それぞれライフジャケットの正しい使い方や海上安全対策、ドローンを活用したノリ養殖調査の試験計画などについて説明がありました。



第1回研修会の様子

第二回研修会では、講師として藤島漁業経営相談員、あべ社会保険労務士事務所阿部所長をお迎えし、藤島相談員から「漁家経営の現状」、阿部所長から「法人化に向けた雇用管理」についてご講演いただきました。全国及び宮城県の漁家経営の現状や傾向、今後制度化されるインボイス制度、法人化のメリットやデメリットについて説明がありました。

両研修会において、参加者からも様々な質問が挙がり、有意義な意見交換、漁業士の知識向上の場となりました。



第2回研修会の様子

松島町交通社会実験へのブース出展

令和四年十月二十八日から十月三十日にかけて、国道四十五号線沿いのJR松島海岸駅前交差点付近で開催された松島町交通社会実験において、当支部として、高橋征信指導漁業士（JFみやぎ松島支所）、赤間拓哉青年漁業士（JFみやぎ松島支所）が、松島湾内における力キ養殖に関するブースを出展しました。

当日は、歩行者天国として車道が解放され、賑わい空間として様々なイベントや出展が行われており、非常に多くの観光客が訪れていました。

当支部の出展については、力キの幼生や種ガキが観察できるということ、特に県外からの観光客の注目が集まり、漁業士自らによる松島湾内における力キ養殖方法の説明を通じて、松島湾の力キについて、広くPRすることができました。

来年度以降も、松島町交通社会実験の実施が検討されているため、管内水産業のPRなどを目的としたブース出展を継続していきたいと考えています。



高橋指導漁業士による説明の様子

宮城県漁業士会参加行事

宮城県漁業士会では、令和四年度に以下の行事に参加・協力しました。

○宮城県漁業士認定検討会

宮城県が実施する漁業士を認定するための検討会。会長が検討委員として対応しました。

○宮城県漁業協同組合青年部総会

会長が来賓として出席しました。

○2023農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会

農山漁村の男女共同参画の推進について意識啓発を図り、女性がその能力を発揮できる社会の実現を目指すことを目的とした大会。宮城県漁業士会として大会の後援を行うとともに、会長が来賓として出席しました。

○水産青年フォーラム

県漁協青年部が主催するグループ討議形式の研修会。会長が来賓として出席したほか、漁業種類ごとのグループ（分科会）に、合計六名の漁業士を助言者として派遣しました。



かき分科会の様子
江刺寿宏指導漁業士(JFみやぎ石巻地区支所)を派遣

トピックス

青年漁業士養成講座について

県が主催する「青年漁業士養成講座」が令和四年八月二十五日・二十六日に県水産技術総合センターで開催されました。

本講座は漁業士として活動するために必要な知識を身につけるものです。今回の受講者は一名で、最新の漁業情報や漁家経営のあり方、漁業士会会長からの体験談等の講義を熱心に受講していました。受講者の皆さまが今後漁

業士に認定され、ご活躍することを期待しています。

○受講者

三浦 卓也さん

(JFみやぎ大谷本吉支所)



小野寺会長(右)による漁業士会活動に関する講義

退任漁業士のお知らせ

令和四年度末までに指導漁業士認定期間が終了し、退任された方は次のとおりです。

○令和四年度任期満了

堀内 仁さん

(JFみやぎ大谷本吉支所)

阿部 洋さん

(JFみやぎ歌津支所)

小野寺 敏一さん

(JFみやぎ志津川支所)

これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。

退任される皆さまには、来年度、感謝状と記念品が贈呈されることとなっています。

第二十回宮城県青年・女性漁業者交流大会の開催について

令和四年十月二十五日に県漁協本所を会場として、第二十回宮城県青年・女性漁業者交流大会が二年ぶりに開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、発表者・審査員以外はオンライン視聴を行いました。

また、小野寺会長が来賓及び審査員として出席しました。青壮年団体一団体、女性団体二団体の計三団体から日頃の活動実績が発表されました。

①ブルーツーリズムを核とした町おこし

海しよくにんの「推し」が人を呼び込む
南三陸海しよくにん 高橋 直哉

②食を通じて幸せを届ける

浜のお母さんの力で
南三陸おふくろの味研究会

小山 れえ子

③「青空復興市」をみんなの手本に 島の高齢者が安心して暮らせるように

JFみやぎ網地島支所女性部

阿部 伸子



南三陸おふくろの味研究会



南三陸海しよくにん

第二十八回全国青年・女性 漁業者交流大会の開催について

内容は、①地域の交流人口の増加や②水産加工品の付加価値向上、③高齢者が安心して暮らせる仕組みづくりなど、いずれの発表も素晴らしいものでしたが、審査の結果、南三陸海しよくにん及び南三陸おふくろの味研究会が最優秀賞を受賞しました。

令和五年三月一日から三月二日にかけて、第二十八回全国青年・女性漁業者交流大会が東京都（ホテルグランドアーク半蔵門）において開催され、宮城県大会で最優秀賞を受賞した二団体が活動実績を発表しました。

各道府県の審査を勝ち抜いた全



JFみやぎ網地島支所女性部



南三陸おふくろの味研究会



南三陸海しよくにん

国の青年・女性漁業者が研究・実践活動を発表する場とあって、どの発表もレベルの高いものでした。宮城県からは、「南三陸おふくろの味研究会」が第四分科会／地域活性化部門に、「南三陸海しよくにん」が第五分科会／多面的機能・環境保全部門に出場し、両団体とも水産庁長官賞を受賞しました。

大会当日は、当会から小野寺会長が視察を行いました。

「みやぎ漁師カレッジ」が 開催されました

県が漁業の担い手育成・新規就業者確保のため開催している「みやぎ漁師カレッジ」において、座学や漁業現場の講師として漁業士の皆さまにご協力いただきました。

令和四年六月一日から九月二十六日までと、九月一日から十二月十四日まで、二期に分けて開催された長期研修では、新規就業希望者五名、漁業後継者一名の計六名が参加し、宮城の水産業の概要等の座学や、カキ・ワカメ養殖、刺し網・定置網漁業などの現場研修を受講しました。さらに一級小型船舶操縦士などの資格も取得し、研修修了後、研修生は県内漁業の各現場に就業しています。

また、令和四年十月二十一日から二十三日、令和五年一月二十日から二十二日の各三日間開催された短期研修では、宮城の漁業に

関心のある八名が集まり、宮城の水産業の概要等の座学、定置網の網起こし、カキの水揚げ作業などを体験しました。

○ご協力いただいた漁業士の

皆さま(順不同)

〽長期研修〽
小松 武 指導漁業士
高橋 陽一 指導漁業士
平塚 知洋 青年漁業士
赤間 俊介 青年漁業士
〽短期研修〽
高橋 征信 指導漁業士
二宮 義秋 指導漁業士



カキの水揚げ作業(短期研修)

「みやぎ漁師カレッジ」は来年度も開催される予定です。新規就

業者の確保及び本県水産業のPRの機会になりますので、ご協力いただける漁業士の方は県事務局にご連絡ください。

「みやぎ漁業就業支援

オンラインフェア」が
開催されました

県が主催する「みやぎ漁業就業支援オンラインフェア」が、令和四年七月九日及び十一月七日の二回開催されました。

このフェアは、新規就業について直接相談できる場を提供し、「漁業就業希望者」と「担い手を確保・育成したい漁業者」のマッチングを図るために開催されているものです。

同フェアは来年度も開催される予定です。新規就業者を確保する機会になりますので、興味のある漁業士の方がいましたら、県事務局にご連絡ください。

「みやぎ水産の日」x

宮城県漁業士会

県では、毎月第三水曜日を「みやぎ水産の日」と定め、県漁協や販売店等と連携して、県内水産物の魅力を発信する取組を行っています。

います。

各支部で「みやぎ水産の日」にあわせた販売会などを開催しており、県産水産物をPRする機会になりますので、興味のある方は所属の支部事務局にご相談ください。



宮城県漁業士会ロゴマークを

ご活用ください！

宮城県漁業士会では、漁業士の認知度向上(PR)と漁業士が生産した商品の付加価値向上を目的として、ロゴマークを作成し、その活用を推進しています。

宮城県漁業士会の認知度向上(PR)を目的とした取組(名刺、封筒、ホームページ、店舗入口への掲示等)、商品パッケージへの使用、及び商品の販売促進等で幅広くご活用いただけます。詳しくは所属の支部事務局にご相談ください。



海のリーダー
自慢の美味しいもの



海のリーダーが
育てた美味しいもの

水産業の未来を語ろう

〽座談会を動画にしました〽

本コーナーは、活力ある水産業の未来に向けて、漁業士の皆さまに語っていただく企画です。

令和三年度末に開催した「法人化」をテーマとし、法人経営を行っている漁業士の皆さまと専門家も交えた座談会の様子を動画にしましたのでぜひご覧ください。また、

新たなテーマも随時募集しております。

みやぎ水産の日
YouTubeチャンネル



※動画は、上記QRコードからの限定公開です。

海人編集委員(敬称略)

北部委員 小野寺 和義
中部委員 阿部 慶昭
南部委員 櫻井 健太

海人では、皆さまからの原稿をお待ちしています。内容は自由で、四〇〇字詰め原稿用紙二枚以内にとり、漁業士会事務局までお送りください。